

2017年度環境報告

2017年度 当社における 環境マネジメントシステム活動について、簡略ながら報告致します。

1. 外部審査結果

外部審査機関による 第2回サーベイランス審査 及び JIS Q14001:2015移行審査 を
11月6日掛川工場 ・ 11月7日白岡工場で受審し、不適となる事項はありませんでした。

2. 目的・目標の達成度

運用実績は以下の通りです。

① 電力

目 標 : 2015年度使用量を基準として2017年度中に2%削減する。

結 果 : 電力総使用量は、効率的な生産活動及び電力削減施策を継続しましたが、2.47%増加し、目標達成できませんでした。

要因は、内製品が5.83%増加した事によるものです。

② ガソリン

目 標 : 2015年度営業車の燃費を基準として2017年度中に2%向上する。

結 果 : 営業車の燃費は、エコドライブの徹底により5.58%向上し、目標達成しました。

③ プロパンガス・都市ガス

目 標 : 2015年度使用量を基準として2017年度は、維持する。

結 果 : プロパンガス・都市ガス総使用量は、効率的な使用を継続した結果、76.17%増加し、目標達成できませんでした。

要因は、作業環境を改善するため、空調エリアの拡大によるものです。

④ 一般廃棄物

目 標 : 2015年度排出量を基準として2017年度中に2%削減する。

結 果 : 一般廃棄物総排出量は、分別廃棄の徹底を継続した結果14.21%削減し、目標達成しました。

⑤廃プラスチック

目 標 : 2015年度排出量を基準として2017年度中に2%削減する。

結 果 : 廃プラスチック排出量は、分別廃棄の徹底とリサイクルとしての売却を継続しましたが0.5%増加し、目標達成できませんでした。

要因は、事務所移転に伴う特別処分を行ったことによります。

⑥古紙排出率

目 標 : 2015年度排出率を基準として2017年度中に0.4%削減する。

結 果 : 古紙排出率は、工程ロスの削減を推進しましたが0.39%削減し、目標達成できませんでした。

⑦設計開発

目 標 : 2016年度中に環境に配慮した改善提案を300件行う。

結 果 : 環境に配慮した改善提案は、340件提案され13.3%増加し、目標達成しました。

3. 法規制及びその他の要求事項の遵守状況

特に問題はありません

4. 利害関係者からの情報又は、社会環境の変化

①苦情等はありません。環境などの変化もありません。

5. 新たに生じた著しい環境側面の変化

発生しておりません。

6. その他の諸事項

活動は問題なく推進しております。

7. 総括

1. 2017年度の環境管理活動は、上記の通りとなりました。
2. 2017年度から環境管理マニュアルを JIS Q14001:2015 の要求事項に基づき改訂し、環境マネジメントシステムの運用を行いました。
3. 5月に実施した臨時内部監査を監査員の教育訓練と位置づけ、工場間の相互監査を実施したことにより新任内部監査員及び内部監査員候補の力量の向上いたしました。
また、環境管理活動の水平展開を行い、活動が活性化しました。

以上